

## インフルエンザ

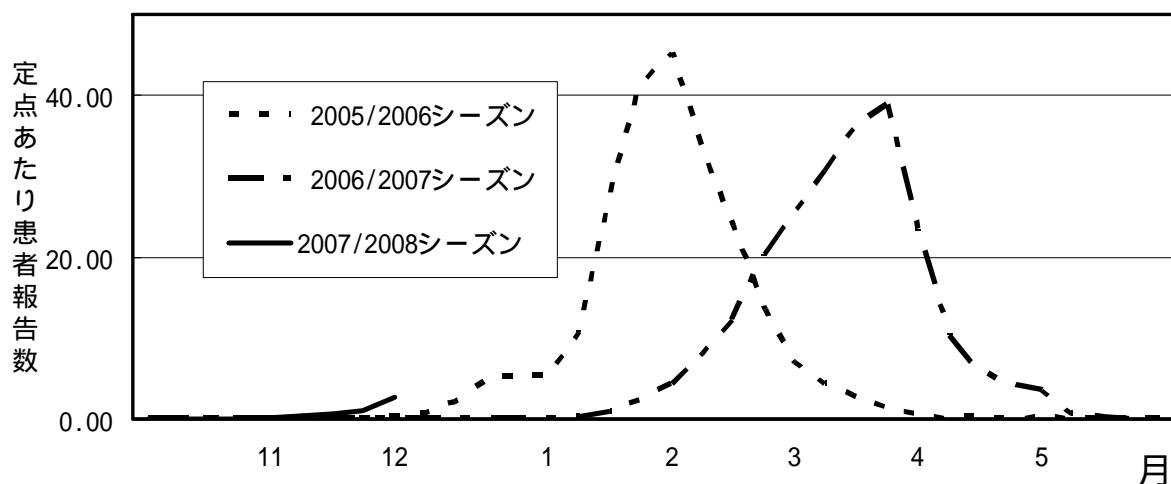
### (1) 昨シーズンの流行

昨冬(2006-2007シーズン)のインフルエンザ流行の特徴としては、例年より流行の始まりが遅く、週別の定点あたり患者報告数が1.00を超えたのは、1月下旬(第4週 1月22日~28日)であり、ピーク(定点あたり38.76)を迎えたのも3月下旬(第12週 3月19日~25日)と遅かった。分離された主な流行ウイルスはA香港型とB型であった。また少数のAソ連型ウイルスも分離された。などが挙げられます(下図参照)。

### (2) 今シーズンの流行

今冬(2007-2008シーズン)は、すでに患者報告数が第47週(11月19日~25日)で定点あたり1.00を超え、流行の開始が早く、県内では現在8株(Aソ連型3株およびA香港型5株)のウイルスが分離されています。全国ではすでに多数のウイルス分離(12月7日現在分離数、Aソ連型226、A香港型14、B型2)が報告され、現時点での分離状況では、Aソ連型ウイルスが流行の中心となっています。今後、さらなる流行の拡大が予想される年末年始から2008年初頭にかけて慎重な動向監視が必要です。  
病原体定点の先生方には、引き続き検体採取に御協力をお願いいたします。

インフルエンザ患者報告数(埼玉県)



インフルエンザ、その他の感染症に関する最新の全国情報は、国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ (<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>) でご覧になれます。